

## 医学生 臨床研修Ⅱ（4週間コース）

### 研修プログラム

#### 耳鼻咽喉科

##### 【当院の耳鼻咽喉科（研修）の特性】

- 1) 当院は広島県北（三次，庄原，安芸高田，世羅）のみならず，島根県南部，救急医療においては岡山県北西部を医療圏として抱えており，診療する症例は多岐にわたる。
- 2) 県北唯一のがん診療拠点病院であると同時に，周囲に競合する病院がないため，医療圏の症例が当院に集中する。そのため，一般外来診療，手術症例，がん診療，救急医療，その他すべての関連疾患において，地域の「最後の砦」としての役割を担っている。
- 3) NST（栄養サポートチーム）に参加し，摂食嚥下に関してチーム医療の中心として活動している。
- 4) 若い医師の割合が多く，学生や初期研修医が1，2年上の先輩に気軽に相談できる雰囲気である。
- 5) 当院のような「救急も含め地域のあらゆる症例を診る」という郡部の中核病院での研修は，都市部の大病院での研修とは違った幅広い疾患経験が得られ，将来どのような進路を選択するにせよ，役立つ経験になる。

##### 【一般目標 GIO】

チーム医療を実践する医療者の一員として診療に従事することを通じて，医療者のもつべき7つの能力を学び，基本的なものを修得する。

7つの能力とは，1. 臨床技能，2. 公衆衛生，3. 科学的基礎知識，4. プロフェッショナリズム（態度），そして，これらを支えるための，5. コミュニケーション能力，6. 情報管理，7. 批判的思考，をさす。

参考）Core committee, Institute for International Medical Education: Global minimum essential requirements in medical education, Med Teach 24: 130-135, 2002.

# 市立三次中央病院

## 【到達目標（行動目標） SBO s】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる。
- 4) 手術：自習、カンファレンス、手術を通じて、頭頸部の解剖・生理を理解する。
- 5) 適切な手洗い、ガウンテクニックと簡単な縫合、糸結びができる。
- 6) 外来：頭頸部のエコー検査を実践しながら、頭頸部の解剖を理解する。
- 7) 難聴、めまい、顔面神経麻痺など、耳鼻咽喉科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 8) 病棟&外来：収集した情報を基に、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる。
- 9) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
- 10) 診療に必要な知識・情報（UpToDate、MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
- 11) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
- 12) 期間中の院内外研修会と耳鼻咽喉科関連学会に参加し、学術活動の意義とそのあり方を認識する。

## 【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
- 4) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。
- 5) 特に手術室においては清潔・不潔の区別に留意し、指導医の指示に従って行動すること。

# 市立三次中央病院

## 【実習の内容 LS】

### 1) オリエンテーション：

第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布する。

—実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日漏らさず記入すること。

また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込みこと。

### 2) 指導医とのチーム医療の実践：

—第1週の月曜日に主指導医を割り当てる。

—以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。ただし指導医の予定によっては別な指導医と行動をとることもありうる。

—指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、指導医の属する医療チームの1人として入院から退院までの医療に参加すること。

—具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぎ、従うこと。

### 3) カルテ記載：POMRの実践

—病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。

—これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。

### 4) 病棟処置回診：毎朝 8:30 から、3 西病棟処置室にて、耳鼻咽喉科医全員と介助看護師 1-2 名で、耳鼻咽喉科入院患者の病棟処置回診を行う。なお、8:30 に医局研修室に全員が集合して、一緒に行動する。

—患者の概要と現在の治療の進行状態を把握する。

### 5) 症例カンファレンスでのプレゼンテーション：

—毎金曜日 16:30～（3階西病棟スタッフステーション）にて行う。

—直前の水曜日の手術患者について、症例プレゼンテーションを行う。

—簡潔に発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。

### 6) NST《栄養サポートチーム》への参画：

—第一月曜日夕刻の NST カンファレンスに参加する。

—病棟 NST 回診《不定期》に参加する。

# 市立三次中央病院

## 7) ポートフォリオ

—毎日記載し、実習日誌「毎日の振り返り」について、毎日終わらないし、翌日の朝に指導医のコメント・署名をもらうこと。

### 【週間スケジュール】

時間	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
8:30～	病棟回診&カルテワーク				
午前 9:30 ～ 12:00	外来研修 (2診)	外来研修 (1診)	終日手術 合間に 外来での 書類ワーク (診断書, 麻酔申込など)	外来研修 (3診)	外来研修 (2診)
13:00 ～ 16:00	外来午後診 翌日の予習	外来午後診 入院 IC 準備		甲状腺 腫瘍外来 (頸部エコー 実習)	甲状腺腫瘍外来 ないし 日帰り手術
16時～	病棟回診 & カルテワーク	予定入院 患者対応 指導医とIC	病棟回診  16:30～ 医長ミニ講義	病棟回診  16:30～ 医長ミニ講義	病棟回診  16:30～17:00 症例 カンファレンス

### 【評価 Ev】

11項目の到達目標（SBOs）が実習中にどの程度達成されたかを評価する。

- ① 指導者（医師・看護師・事務職・技術職技師）による、医療者としての行動（パフォーマンス）・態度の評価（15点）
- ② ベッドサイドでの患者とのコミュニケーションの評価（10点）
- ③ カンファレンスでのプレゼンテーションの内容（15点）
- ④ 記載したカルテの内容の評価（15点）
- ⑤ ポートフォリオの内容の評価（15点）
- ⑥ 当科領域に関する知識・理解度（15点）
- ⑦ 手術室での行動・態度の評価（15点）

以上の7項目について採点して総合評価（100点満点）を行う。

# 市立三次中央病院

【参考図書，文献】（当院図書室・インターネットで参照できるものが多数）

## 1) 手術書・教科書各種

- ・耳鼻咽喉科・頭頸部手術アトラス（上・下） 小松崎 篤編 医学書院
- ・新臨床耳鼻咽喉科学 1～5巻 中外医学社
- ・内視鏡下鼻内副鼻腔手術 森山寛著 医学書院
- ・口腔咽頭の臨床 医学書院

## 2) 解剖教科書

- ・ネッター解剖アトラス 第8版 医学書院

## 3) 診療ガイドライン

- ・鼻アレルギー診療ガイドライン 2016年版 ライフサイエンス
- ・マニュアル病ガイドライン 2011年版 金原出版
- ・甲状腺腫瘍診療ガイドライン 2010年版 金原出版
- ・日本鼻科学会：急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン. 日鼻誌 2010; 49: 143—247
- ・小児滲出性中耳炎診療ガイドライン 2015年版 金原出版 インターネット閲覧可
- ・小児急性中耳炎診療ガイドライン 2013年 金原出版 インターネット閲覧可
- ・がん診療ガイドライン <http://www.jsco-cpg.jp/guideline/15.html>
- ・嚥下障害診療ガイドライン 2012年版 金原出版
- ・咳嗽に関するガイドライン第2版 日本呼吸器学会

## 4) 取り扱い規約

- ・頭頸部癌取り扱い規約 第5版 金原出版

5) インターネットでの文献検索(医学中央雑誌, メディカルオンライン, Science Direct)が図書室・研修室で行える。

## 【耳鼻咽喉科医師一覧・専門領域・資格】

永澤 昌（耳鼻咽喉科全般・頭頸部腫瘍）副院長・医長

広島大学臨床教授, 日本耳鼻咽喉科学会専門医,

日本気管食道科学会専門医, 日本頭頸部外科学会頭頸部癌暫定指導医

林 直樹（耳鼻咽喉科全般, めまい平衡障害, 嚥下）主任医長

日本耳鼻咽喉科学会専門医, 市立三次中央病院 NST チェアマン

多田 誠（耳鼻咽喉科全般）耳鼻咽喉科医員

日本耳鼻咽喉科学会専門医